



しほろ

平成27年 5月 No. 156

議会だより

3月定例会

条例制定、人事案件ほか …………… 2ページ

一般質問

町職員の研修などについて ほか4件 …… 4ページ

予算審査質疑

…………… 6ページ

新しい議会構成

…………… 10ページ

かけ橋 「院長に着手して」

士幌町国民健康保険病院院長 池田 和雄さん …… 12ページ



夢・希望に向かつて、

士幌高校に72名が晴れて入学

平成27年
第1回
定例会

平成27年度一般会計ほか7特別・1事業会計

前年度対比微増の予算、総額120億円

新「教育長」の任命など59議件を原案どおり可決



多くの傍聴者が訪れた定例会本会議場（3月10日）

第1回定例会が、3月6日から16日までの会期で開会。

初日は行政報告、教育行政報告、町政及び教育行政執行方針ほか3件の監報告を行い、一般議案7件、平成26年度補正予算7件を審議。

10日は、4人の議員が一般質問に登場。条例案28件、人事案4件を審議後、平成27年度予算審査特別委員会を設置し、12日まで予算審査を実施。

13日は、本会議を再開し、全会計の歳入歳出予算を可決後、追加議案4件、意見書案3件、決議案1件を審議し、全ての議件を原案どおり可決閉会した。

平成27年度 各会計予算総額

単位：額は万円、伸率は%

会計区分	予算額	前年度対比	
		増減額	伸率
一般会計	68億1500	▲1億7200	▲2.5
特別会計			
国民健康保険	12億1330	1億4527	13.6
後期高齢者医療	9529	478	5.3
介護保険	6億2407	119	0.2
介護サービス	5億2537	▲1272	▲2.4
簡易水道	3億6516	4764	15.0
公共下水道	1億4381	▲614	▲4.1
農業共済	12億5797	3636	3.0
病院事業会計	10億90	▲540	▲0.5
合計	120億4087	3898	0.3



堀江 博文 氏
(中士幌西)

教育委員会制度改正に伴い、平成27年度より新制度に移行するため教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」の任命に同意。

教育長の任命

第1回定例会で審議・可決等された案件

報告	審議	結果	賛・反
行政報告	教育行政報告	結果	賛・反
町政執行方針	教育行政執行方針	了承	
例月出納検査報告	随時及び定期監査報告	結果	賛・反
条例の制定		可決	賛・反
土幌町立幼保連携型認定こども園条例		可決	賛・反
土幌町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例		可決	賛・反
土幌町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例		可決	賛・反
土幌町地域包括支援センターの人員及び運営に関する基準を定める条例		可決	賛・反
条例の改正		結果	賛・反
土幌町公民館条例		可決	賛・反
土幌町総合研修センター設置条例		可決	賛・反
土幌町学校給食センター設置条例		可決	賛・反
土幌町教育支援委員会設置条例		可決	賛・反
土幌町食品加工研修センター設置条例		可決	賛・反
教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例		可決	賛・反
教育長の給与に関する条例等		可決	賛・反
土幌町屋内ゲートボール場の設置及び管理運営に関する条例		可決	賛・反
土幌町パークゴルフ場の設置及び管理に関する条例		可決	賛・反
土幌町環境改善センター設置条例		可決	賛・反
土幌町開拓史料館「美濃の家」設置条例		可決	賛・反
土幌町高等学校寄宿舎設置条例		可決	賛・反
道路占用料徴収条例		可決	賛・反
土幌町介護保険条例		可決	賛・反
土幌町介護保険条例		可決	賛・反
土幌町児童保育所条例		可決	賛・反
土幌町乳幼児等医療費の助成に関する条例		可決	賛・反
土幌町行政手続条例		可決	賛・反
土幌町廃棄物の処理及び清掃に関する条例		可決	賛・反
土幌町地域活動支援センター設置及び管理に関する条例		可決	賛・反
土幌町議会の議決すべき事件に関する条例		可決	賛・反
土幌町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例		可決	賛・反

平成27年度予算の 主要施策概要

一般会計ほか7特別・1事業会計の総額は、120億4087万円で前年度比微増。

国際化・グローバル化が進行する中、少子高齢化からの人口減少、産業経済の動向（TPPなど）、エネルギー問題、気象異変など、町を取り巻く環境が大きく変化し、厳しさが増し、多様化が進んでいる。

今年度は、第6期町づくり総合計画と併せて地域版の総合戦略の策定年度であり、時代のニーズをしっかりとらえ、健全な財政運営に留意しながら、戦略的な視点を持った地域づくりを積極的に推進する。



町政執行方針を述べる小林町長

平成27年度の力点事業

- ▼町づくり総合計画策定事業（第6期町づくり総合計画の策定） 250万円
- ▼町づくり協働推進事業・パートナーシップ推進事業 1419万円
- ▼移住・交流対策（移住体験住宅の運営ほか） 178万円
- ▼コミバス運行事業（試験運行から本格運行へ移行） 659万円
- ▼新拠点（道の駅）基本設計・実施設計 4000万円
- ▼道の駅しほろ温泉施設設備改修事業（施設照明の省エネルギー化） 700万円
- ▼子ども交流センター新築事業（学童保育所と放課後子ども教室の機能を併せ持つ施設） 1億5000万円
- ▼生涯学習推進（生涯学習用図書等の充実、食農体験学習事業など） 356万円
- ▼乳幼児等医療費助成（中学生までの医療費を全額助成に拡大） 3893万円
- ▼子育て支援祝い金（出生時・第3子以降小学校入学時の祝い金） 620万円
- ▼学校給食費子育て支援
- ▼（保護者負担の軽減） 555万円
- ▼予防接種事業（インフルエンザ予防接種の助成は中学生まで対象） 1238万円
- ▼妊婦健診委託事業（妊婦を対象とした産婦人科定期健診費用の助成） 512万円
- ▼高齢者住宅整備事業（若菜団地建替1棟5戸） 8906万円
- ▼大通西団地分譲地造成事業（4区画） 3354万円
- ▼定住促進対策（定住雇用促進用賃貸住宅建設助成ほか） 1368万円
- ▼産業担い手育成（農業新分野開発推進事業・商工業にぎわい創出推進事業） 200万円
- ▼土地改良事業基盤整備（基盤整備6地区、農道整備3路線） 2億908万円
- ▼多面的機能支払事業保全隊補助（町内全9地区） 1億4423万円
- ▼町道整備事業（継続4路線、新規2路線）、橋梁長寿命化事業 3億8300万円
- ▼本町簡易水道整備事業（営農用水事業、配水管敷設等） 1億3560万円

▼土幌町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例	可決	全員賛成
▼職員給与に関する条例	可決	全員賛成
▼一般職の任期付職員の採用等に関する条例	可決	全員賛成
▼へき地保育所条例	可決	全員賛成
▼条例の廃止	結果	賛・反
▼土幌町庁舎等耐震改修事業基金条例	可決	全員賛成
▼人事・一般議案	結果	賛・反
▼教育委員会教育長の任命について	同意	全員賛成
▼教育委員会委員の任命について	同意	全員賛成
▼固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意	全員賛成
▼人権擁護委員推薦につき意見を求めることについて	同意	全員賛成
▼指定管理者の指定について	可決	全員賛成
▼指定管理者の指定について	可決	全員賛成
▼農業共済事業事務費賦課総額及び賦課単価を定めることについて	可決	全員賛成
▼農業共済事業家畜共済危険段階共済掛金率等の変更について	可決	全員賛成
▼平成27年度農業共済事業の損害防止実施に伴う特別積立金の取崩しについて	可決	全員賛成
▼辺地総合計画の変更について	可決	全員賛成
▼土地の取得について	可決	全員賛成
▼平成27年度各会計予算	結果	賛・反
▼一般会計	可決	全員賛成
▼国民健康保険事業特別会計	可決	全員賛成
▼後期高齢者医療事業特別会計	可決	全員賛成
▼介護保険事業特別会計	可決	全員賛成
▼介護サービス事業特別会計	可決	全員賛成
▼簡易水道事業特別会計	可決	全員賛成
▼公共下水道事業特別会計	可決	全員賛成
▼農業共済事業特別会計	可決	全員賛成
▼国民健康保険病院事業会計	可決	全員賛成
▼平成26年度各会計補正予算	結果	賛・反
▼一般会計（第8・9号）	可決	全員賛成
▼国民健康保険事業特別会計（第3号）	可決	全員賛成
▼介護保険事業特別会計（第3号）	可決	全員賛成
▼簡易水道事業特別会計（第3号）	可決	全員賛成
▼公共下水道事業特別会計（第3号）	可決	全員賛成
▼農業共済事業特別会計（第5号）	可決	全員賛成
▼国民健康保険病院事業会計（第1号）	可決	全員賛成
▼意見書・決議	結果	賛・反
▼「外形標準課税」の適用拡大に反対する意見書	可決	全員賛成
▼TPP交渉等国際貿易交渉に係る意見書	可決	全員賛成
▼農協関係法制度の見直しに関する意見書	可決	全員賛成
▼教育委員会の中立性を堅持する決議について	可決	全員賛成

加藤 宏一 議員

☞ 町職員の研修などについて

清水 秀雄 議員

☞ TPP交渉から十勝を守る事について
☞ 農協改革について

中村 貢 議員

☞ 商工業の支援について

大西 米明 議員

☞ 子育て支援対策等について

職員研修

研修の充実と町政への反映を

職員全体が共通認識を持って取り組む



加藤宏一 議員

質問

士幌町も30年後には自治体運営が厳しくなる消滅可能性自治体と言われている。30年後も活力ある自治体を目指すために職員個々のスキルアップが必要と考えるが、本町の職員研修の実態と今後の取り組みは。

小林町長答弁

職員研修規程により、一般研修、特別研修、派遣研修、職場研修の区分ごとに毎年度計画を定め実施している。平成26年度では、約70名が各研修を受講。今後も単に知識、技術を習得するだけでなく、幅広い見識やマネジメント能力など豊かな資質の職員を養成すべく職員研修を積極的に

推進する。

質問

研修規程では、職員が自主的に取り組む自主研修もあるが、職員が研修した成果を町政にどう反映させるのか。

小林町長答弁

人口減少、地方分権など地方を取り巻く環境が大きく変化する中、町づくりをどう進めるかということを経営全体の共通認識としながら、今後取り組んでいく。



区分ごとに実施している研修会

TPP

脱退求める運動展開を

関係団体連絡協議会と連携して



清水秀雄 議員

質問

TPPをめぐる日米両政府の実務者協議で、日本政府は牛肉、豚肉、乳製品などの農産物14品目の関税で大幅な譲歩を迫られ、例外扱いにできない保障はないと言われている。平成25年4月、衆参農林水産委員会では重要5品目の聖域確保ができないと判断した場合は脱退も辞さないと言議したが、米国主導の交渉が続けば国会決議が反古にされる。TPP交渉からの脱退を求める運動を展開すべきと考えるが。

小林町長答弁

TPPは、本年前半の交渉妥結を見据えて協議が加速すると予想。報道では、牛肉の



昨年5月に行われた緊急集会

関税を現行38.5%から段階的に引き下げ15年目を以降に9%にすることで調整しているとあり、これが現実的になると特に本町の肉牛生産への影響は必至で、国会決議を逸脱する譲歩は断じて容認できない。十勝の町村会では、本年2月にTPP交渉から十勝を守る緊急決議を行い、国会決議を遵守するよう関係する国会議員に強く申し入れをした。今後十勝管内の関係団体連絡協議会と連携しながら取り組みを展開していきたい。

平成27年 第1回定例会

一般質問

3月定例会では4人の議員が一般質問に登壇し、理事者の考えをいただきました。内容を要約してお知らせします。全文については議会ホームページに掲載します。

農協改革

農協解体を許さぬ行動起こすべき

関係機関、団体と連携して対応

清水 議員

質問

安倍首相は、農協改革を断行すると明言した。首相が進める農協改革は農業者だけではなく広く町民にかかわる問題であり、自治体として農協改革を許さない行動を起こすべきと考えるが。

小林町長答弁

北海道では農協が地域社会の形成に大きく寄与している。とりわけ典型的な農業の町である本町では、農協事業が経済産業や社会生活に重要な関わりを持っており、商工会とともに本町の町づくりを進めるパートナーとして欠かせない存在と認識している。今後、法案策定の動向を注視しつつ、関係機関、団体と連携して基幹産業である農業、地域の社会経済を守るべき視点を持って対応する。

質問

TPP反対の司令塔として



地域の経済、産業を支える土幌農協

の中央会つぶしと言われているが、その点について町長はどのように考えているのか。

小林町長答弁

農協が農業発展、地域経済の大きな役割を果たしている側面から言えば、守られるべきである。また、国が一方的に進める改革であれば行政としても反対をしていかなければならない。

商工業

小規模企業者への支援充実を

商工会と連携しながら積極的に支援

質問



中村 貢 議員

小規模基本法は、事業規模が拡大できなくても地域で雇用を維持し、地域に必要な商品、サービスを供給し頑張る小規模企業に光を当てるものであり、商工会が小規模企業の課題をサポートし、自治体等が連携を取りながら支援することになっているが、今後の支援策は。

小林町長答弁

本町においては、商工会が中心となつて、これまで地域の実情に合わせ、様々な独自事業を展開するなどして地域経済の活性化対策と併せ、地域コミュニティの維持に寄与している。

今般の法律改正によって商



商工業の活性化を担う商工会

工会の役割はますます重要になると認識。町としては、商工業活性化推進事業など、商工業の支援を推進してきたが、今後も商工会や関係機関と連携しながら、今回の制度を活用し、小規模企業への支援充実を図り、経営の改善、雇用の拡大など地域経済の活性化を推進すべく施策を講じたい。また、地方創生の中で取り組みについて反映させていきたいと考えている。

子育て

急速な少子化に対する今後の施策は
雇用、婚活を含めた少子化対策を推進



議員 大西米明

質問

急速な少子化が進行しているが、本町における子育て支援対策及び少子化対策について、今後どのような施策を行うのか。

小林町長答弁

27年度は、定住人口の安定、地域活性化推進と併せ、子育て支援を重点事業として位置づけ、医療費の助成拡大を中学生まで無料化・学校給食費の保護者負担軽減・子ども交流センターの新設など、学齢期における新たな子育て支援対策を行う。併せて、本年度スタートする子ども・子育て支援計画の5年計画をもち、地域挙げての子育て支援システムの形成を図るとともに、

質問

雇用拡大、婚活支援を含めた少子化対策を積極的に推進したい。

共働き世帯等では、子どもが病気になるたとき、仕事を休んで家庭で看病することが難しい。病院の空きベッドを利用して病児保育を行うことはどうか。

小林町長答弁

病児保育については、5カ年の支援計画をつくる中でも検討しており、病院とも協議しながら取り組みたい。



新入園児一日体験入園（こども園）

予算審査質疑

平成27年度一般会計ほか7会計・1事業会計

第1回定例会で付託された平成27年度各会計予算審査特別委員会（秋間紘一委員長）において、各委員から出された質疑の一部を要約してお知らせします。

総務費

新年度予算で重点的に配分した部分は

問 町長の重点施策で、時代のニーズを踏まえた積極的な政策の展開、戦略的、めりはりのある町づくりとあるが、新年度で特に力を入れて予算配分した部分は。

答 新年度の重点として定住促進、子育て支援対策、地域活性化対策に予算配分した。定住促進では、民間の賃貸住宅補助と住宅団地造成。子育て支援には乳児医療の中学3年生まで全額補助と学校給食費の一部負担補助。小学校再編も含めて放課後の安全、充



こども交流センター予定地（土幌小西側）

実のためのこども交流センターの設置。地域活性化では、商工会の定住対策、貸店舗対策に予算配分した。また、今年度は新しい道の駅の設計委託費を組んでいる。土幌農業とプラスアルファとして食の発信をしていく取り組みを進めていく。

強制執行も含めた
税徴収の強化を

問 税の徴収員賃金が現行の倍以上計上されているが。

答 滞納も増えているため、臨時職員を1名増員する。

問 滞納整理機構への依頼や、徴収員を増員しなくても徴収できる体制を。

納税は義務であり滞納者へ納税のお願いをしなくてはならないのか。納税相談にも来ない滞納者を含め、悪質な滞納者に対しては、ある程度強制徴収まですることも必要では。

答 徴収については、預貯金等の調査、差し押さえなどの強制執行も含めた徴収体制を強化していきたい。

コンビニ収納の実績は

問 昨年から開始したコンビニ収納の利用実績と収納金額は。

答 平成27年1月末現在で、287件、約474万円になっている。

ふるさと納税について

問 新たに設けた、ふるさと寄付報償の特典としては、しほろ牛を考えているのか。

答 町外者で1万円以上寄付された方に対し特典を贈呈することで検討中。現在のところはしほろ牛を中心として土幌町のPRとなるものを随時拡大していく考えている。

問 土幌町のPRであれば、下居辺の温泉、移住体験住宅、土幌高原のコテージなど観光施設を利用するなどの方法もあると思うが。

答 土幌町をPRするという意味では温泉、高原の利用についても、今後それぞれの関係団体、担当者等と協議してこゝろ。

マイナンバー制度について

問 マイナンバー制度が実施されるが、この制度は何に利用されるのか。

答 マイナンバーは全ての方に番号を付番し、社会保障の分野で年金、労働にかかわる

分野で雇用保険等の資格、確認等。福祉、医療の分野で医療保険、保険料の賦課徴収等。税の分野では確定申告の記載等。災害対策にかかわるものに対して利用する。それ以外には利用しないとなっている。

問 制度の周知は。

答 テレビ等でも政府広報が行われているが、町としても新年度から広報紙等により周知に努める。また、平成27年度10月に全住民に個人の番号が通知され、希望者には写真付きの個人番号カードが配付される。

民生費・衛生費

厚生病院への運営費補助金について

問 帯広厚生病院の運営費補助金とはどのようなものか。

答 今までは厚生病院の救命センターに対して補助をしていたが、これ以外の不採算部門についても補助の要請があった。これを受け、平成26年度から厚生病院の運営費

補助金として、5部門の不採算を支援するため、十勝全市町村で運営を補助する。市町村の負担は実績患者割数7割、均等割3割で市町村別に補助金額(全額)、特別交付税で対応される)を算定している。

土幌聖苑の運営について

問 土幌聖苑の年間で使用できない日は。

答 これまでは、正月三日は休みにしていたが、明年から休みを設けない。

農林業費

今後の婚活支援対策は

問 農業後継者パートナー対策を今後どのようにするのか。

答 前回の決算委員会での意見も含め、支援協議会で今後の事業展開を協議していきたいと考えている。

問 国の地方創生の制度を利用して、農業男性だけでなく、一般の人も含めて実績が上が

る対策を。

答 今までの農業後継者パートナー対策は農業に特化していたが、地方創生では町全体の婚活推進なので農業委員会にも参加してもらい、より効果が高まるよう協議、検討する。



農業青年と道外女性との交流会

土木費

橋梁長寿命化について

問 朝陽橋と更生橋の橋梁工事が施工されるが、過去に2つの橋は水害で被災している。どのような修繕工事がなされるのか。

答 朝陽橋は橋面の防水舗装、更生橋は一部破損部分が上部工にあり、その補修と橋面の防水工事を実施したいと考えている。

工事時期は更生橋を27年度に、朝陽橋を28年度に実施する予定となっている。



補修工事予定の更生橋(下居辺)

住宅団地のPRについて

問 中土幌みのり野団地の分譲について、町外者へのPR方法はどのような考えか。

答 町ホームページやホームセンター等にチラシなどを置いていただき、住宅建設にあたっての助成制度等の周知を図る。また、各種団体、組合等にもPRする活動を広めていきたい。

教育費

総合研修センターの 温度管理について

問 総合研修センターの施設内が寒いという声をよく聞いている。予算の説明では、燃料基準単価の低下で燃料費が減額となっている。そのような状況であれば利用者が暖かい状況で使える環境を配慮すべき。

答 暖房器具の調子が悪く、修理をして、多少改善されていると思う。

問 アリーナのロビーは床暖房が設置されているが、利用者が使用する時間になっても冷たい状況が多々ある。

予算削減、節約もある程度は理解するが、利用状況に応じた適切な暖房管理を求めます。

答 アリーナの温度は使用時間帯に応じて18℃に設定している。今後施設の管理にあたっては、できる限り適切な温度管理に努めたいと考える。

少年団活動への バス助成について

問 少年団活動については、町としても助成しているが、額が変わらない状況が続いている。また、一部の大会には助成されるが、遠征などの経費については助成がなく、バス料金も値上がりしている。その部分にも支援は行えないか。

答 スポーツ少年団の活動助成金は前年度と同額で計上している。確かに貸切りバス料金等の経費も上がっていて、今後考えていかなければならない。

土曜授業について



毎回大人気のサタデースクール

問 教育執行方針で土曜授業実施に向けて検討していきたいと述べているが、どのように考えているか。

答 今年度の調査結果では、サタデースクールを年30回程行ったが、少年団、中学校の部活動、各種大会も土曜日に行われている。教師が通常の授業を行う形態では、教師の勤務時間等の問題がある。今後は本来の授業と同じ内容でやるべきが、サタデースクールのような活動がいいのか検討したい。

学校給食費の 無料化の考えは

問 新年度から子育て支援で学校給食費の一部を助成するが、全国的に給食費の軽減や無料化が少子化対策として広がっている。無料にしては。

答 無料化に伴う町負担は3000万円を超えると試算される。無料となれば保護者の負担が軽減されるが、新年度中学生までの医療費全額助成を実施することもあり、町負担も増える。全体の状況を見ながら今後検討し判断したい。

パークゴルフ場の 管理について

問 パークゴルフ場の委託料が減額になった理由は。

答 料金徴収業務が無くなったため。

問 パークゴルフ場の管理は、今後どうなるのか。

答 芝刈りの委託については、生きがい事業団と交渉している。今後とも今までの同様の管理となる運営をしたいと考えている。

消防費

消防の広域化に伴う 消防団の運営は

問 平成28年4月からの消防の広域化が図られるが、消防団の運営はどうなるのか。

答 消防団の業務自体は町の身分なので今までと変わらない。



子どもたちの健全な育成を担う少年団活動



一部負担助成が始まる学校給食

国保病院事業

今後の医師の採用について

問 3月で外科医が退職する。今後はどのような医師、何科の医師を招致するのか。

答 現在医大等と協議しているが、国保病院の実態から幅広く内科から外科までできる医師を確保したい。年齢的には40代から50代前半で要請している。

問 内科医でも呼吸器や消化器などの種類があるが町民は内科医は一律同じだと思っている。医師の専門を病院内や広報等でPRしたほうがいいのでは。

答 国保病院では総合内科という形で受付にも専門医の記載はしているが、その医師が何の専門なのか患者はよく分かっているかと思つて。学会の認定する専門医は宣伝効果もあり、周知することで帯広の病院に通っている患者さんにも士幌に帰ってくるかもしれない。今後は広報紙等で専門医がい

ることを周知する努力が必要と考えている。

介護保険

在宅介護について

問 今、在宅介護が盛んに言われている。高齢化が進み、認知症患者が増えている。在宅介護では老老介護、介護疲れ、家族の理解が得られないなど介護する人の負担が増えている。それらの対応は。

答 認知症等を抱える家族の方は大変苦労されているのが現実であり、そのようなことも多々聞いている。そのような場合には地域包括支援センターの職員、居宅のケアマネージャーがいろんな角度からアプローチするという手法をとっており、様々な方法を探っている現状。

また、介護者のための介護者の集まる自主的なグループもあり、介護者同士で話ができる場を紹介するなど仲間との繋がりを進めることも行っている。

自治功労賞受賞

清水 秀雄 議員

清水秀雄議員が全国町村議長会より自治功労賞を受賞されました。

同賞は、町村議会議員として27年以上在籍し、長年地方自治の発展に貢献された議員に贈られ、第1回定例会の冒頭、加納議長より伝達されました。

清水議員は、昭和62年から7期28年にわたり士幌町の発展のため、地域の振興及び住民福祉の向上に尽力され、その功績が認められたものです。



議会日誌

「1月」

1日 士幌高原で初日の出を迎える会
6日 交通安全祈願祭
7日 士幌消防団出初め式
8日 新年交礼会
11日 成人式及び新成人交歓会
22日 第1回議会臨時会
26日 全員協議会
26日 広報特別委員会
26日 市町村行政懇談会及び新年交礼会

2日 北十勝消防事務組合議会臨時会
3日 議会運営委員会
6日 第1回定例会
(13日まで)
11日 全員協議会
13日 総務文教常任委員会
13日 産業厚生常任委員会
13日 みんなで教育を考えよう集い

「2月」

3日 広報特別委員会
6日 議会運営委員会
9日 議会運営委員会
20日 十勝町村議長会定例会
21日 士幌岐阜会総会
26日 十勝圏複合事務組合議会定例会
27日 十勝環境複合事務組合議会定例会

18日 農業共済事業のあり方検討委員会
23日 社会福祉協議会評議員会
24日 北十勝2町環境衛生組合定例会
25日 士幌町遺族会合同慰霊祭及び総会
27日 広報特別委員会

「3月」

1日 士幌高等学校卒業証書授与式

新たな議会構成でスタート!!

5月8日、初議会に12人の議員が登庁 議長に加納三司議員、副議長は細井文次議員を選出

任期満了による町議会議員選挙が4月21日に告示され、立候補が定数を超えなかったため、無投票で12名の議員が決まりました。新人議員1名を含む12名の議員の任期は、平成27年5月1日から平成31年4月30日までの4年間となります。

5月8日には、初議会となる第2回臨時議会が開かれ、議長に加納三司議員、副議長に細井文次議員が選出されたほか、議会運営委員会、2常任委員会などの議会構成が決定しました。

議長・副議長 就任のあいさつ

町民の皆様には、今後とも町議会へのご理解とご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、就任のご挨拶いたします。

町民の皆様には、今後とも町議会へのご理解とご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、就任のご挨拶いたします。

状況におかれています。私たちが町議会は、これらの課題をより一層の創意工夫と努力を積み重ねるとともに、本町の更なる発展のために町民の負託に応え、誰もが住んでいてよかったですと言われるような町づくりを寄与できるよう議員一丸となって誠意努力して参る所存であります。

この度、初議会におきまして、副議長の重任を拝することになりました。責務と使命の重さを真摯に受け止めて、より開かれた円滑な議会運営に努め、議長の補佐役として最善の努力をいたす所存でございます。今私たちは、地方分権、地域主権という流れの中で、新たな転換期にさしかかっています。将来を見据えた町づくりをしていかないと自治機能が維持できなくなるばかりか、多くの人々の生活基盤が崩壊してしまいます。



議長
加納三司



副議長
細井文次

二元代表制を担う議会の役割は益々重要に思い、町民が町づくりの主役であり、町民の皆様とともに情報を共有し、開かれた議会、町民の皆様の視線が議会に向けられるような議会運営を目指し、その使命達成に努める決意であります。町民皆様の一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げて、就任のご挨拶いたします。

二元代表制を担う議会の役割は益々重要に思い、町民が町づくりの主役であり、町民の皆様とともに情報を共有し、開かれた議会、町民の皆様の視線が議会に向けられるような議会運営を目指し、その使命達成に努める決意であります。町民皆様の一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げて、就任のご挨拶いたします。

◆ 議会運営委員会 委員長 清水 秀雄 副委員長 加藤 宏一 委員 細井 文次 飯島 勝 中村 貢	◆ 議会広報特別委員会 委員長 出村 寛 副委員長 大西 米明 委員 清水 秀雄 細井 文次 河口 和吉	◆ 十勝圏複合事務組合 議会議員 加納 三司	◆ 十勝環境複合事務組合 議会議員 加納 三司	◆ 北十勝消防事務組合 議会議員 秋間 紘一 加藤 宏一 河口 和吉	◆ とかち広域消防事務組合 議会議員 加納 三司	◆ 北十勝2町環境衛生 処理組合議会議員 清水 秀雄 和田 鶴三 出村 寛 中村 貢	◆ 監査委員 森本 真隆
--	---	------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	---	-----------------



◆総務文教常任委員会



委員長
加藤 宏一



副委員長
飯島 勝



委員
和田 鶴三



委員
秋間 紘一



委員
細井 文次



委員
河口 和吉

◆産業厚生常任委員会



委員長
中村 貢



副委員長
森本 真隆



委員
清水 秀雄



委員
大西 米明



委員
出村 寛

より充実した町づくりのために
各委員会等を構成しています

◆議会運営委員会

議会の日程調整や議会の運営及びそれに関わる諸規則を調査研究するなど、議会の運営に関する一切の事項を協議します。

◆総務文教常任委員会

税財政や出納、町有財産、交通防災、学校教育、社会教育、選挙管理委員会、公平委員会、監査に関する事務などの案件を調査し、併せてそれらに必要な調査研究を行います。

◆産業厚生常任委員会

農林水産業や商工業、土木及び建築、簡易水道並びに上下水道、保健衛生、国民健康保険、失業対策、その他民生安定に関する事務などの案件を調査し、併せてそれらに必要な調査研究を行います。

◆議会広報特別委員会

町議会の活動実態を公正に町民に知らせるため、町民の自治行政の推進を図るため、定期的に町議会広報紙を発行しています。

◆監査委員

監査委員のうち、議会から選任される委員について町長から提案があり、これに同意をしています。

◆一部事務組合議会議員

事務の処理や施設を合理的に運営するため、他の市町村と共同で行う一部事務組合の議会議員を選出しています。



かけ橋

院長に着任して

土幌町国民健康保険病院院長 池田 和雄さん

(出) 身 横浜市 名古屋市立大学医学部卒
(所属学会) 日本消化器病学会(消化器病専門医)
日本内科学会(総合内科・認定内科専門医)
日本内視鏡学会、日本肝臓学会
日本胆道学会、日本呼吸器病学会

平成27年1月より土幌町国保病院院長に任ぜられました。

北海道の地域医療に携わるようになったのは20年前平成7年、12年間勤務した静岡県磐田市総合病院消化器内科を退職し、厚岸町立病院へ着任しました。途中一度2年間は大学にもどりましたが、その後再び厚岸町立病院、土幌町立病院、鶴居村診療所を経て、再び平成22年4月土幌町に着任しました。土幌町立病院での勤務は石橋院長の時代より通算8年になります。

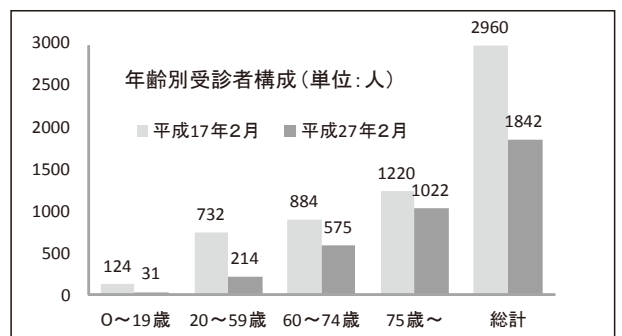
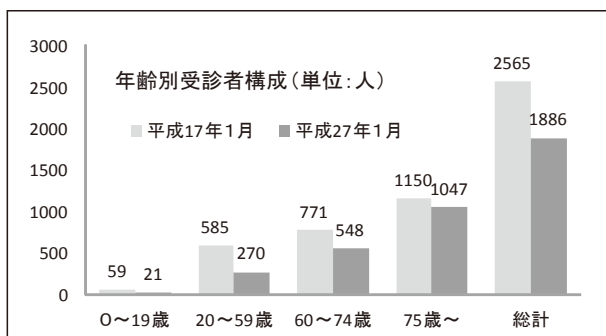
下表は10年前勤務していた平成17年1月、2月と現在の平成27年1月、2月の外来患者さんの年齢別構成です。総計で見ますと約7000人、受診者数が減少し

ています。

整形外科医の常勤医が勤務していたこと、処方箋が2週間〜4週間投与であったこと、インフルエンザの流行、そして現在の処方箋が8週間の長期投与が常識となったことを考慮しても、特に20歳〜59歳の受診者の減少率が高いことがわかります。また、昨年の実施されたアンケート調査から医療への信頼がなくなっただけでなく、その原因の一つと思われる受診者に占める割合は41〜45%が55%と10年前に比較して増加しています。

すとして平成27年1月の一般病棟の平均年齢は80.29歳、日常生活の自立度は約4割が寝たきりの患者さんで、歩行可能な患者さんは約4割にすぎません。

土幌町立病院における町の基本方針は、地域の医療、保健、福祉を増進することを目的としています。入院・外来患者さんの年齢構成からも、必然的に高齢者に目を向けた医療、在宅復帰を促進するためにも、訪問看護・訪問診療を押し勧め、医療の質の向上はもとより、安心できる医療、安心して相談ができる病院をめざして、信頼の回復に努めていきたいと思っております。



今回のしほろ議会だより156号で現広報委員での議会だより編集が最後となりました。



4年間延べ16回の発行に当たり開かれた議会のもと、多くの町民の皆様は議会の動向を詳しく伝えること、読みやすい、分かりやすい紙面を作成することを大前提に活動して参りました。

議会だよりは、多くの町民の皆様と議会をつなぐ情報紙として議会活動の重要な一翼を担う部分だと思っております。

この4年間の広報委員会活動の中で、多くのご意見、ご感想をいただき誠に感謝申し上げます。

今後ともご愛読いただきませうようお願い申し上げます。

広報特別委員会委員長

細井 文次